

これからの方向を示唆する「例会」 足元を掘り下げる学びの教訓

過日の新年の「例会」は、素晴らしい出来でした。計画段階から、諸君が、考えに考えたであろうことは、すぐに分かりました。また、実際に行動に移すに当たり、それぞれの塾生諸君が、精一杯の努力をしたであろうことも、十分に想像が付きました。いささか大げさですが、『夢甲斐塾』の歴史に残り、後々の塾生諸君に伝えたい『例会』に参加できことに、改めて、私も心から感謝します。

今回の「例会」を通じて、今後の学びのあり方に大きなヒント・示唆をもらったと思っています。私が、「例会」を通じて得た示唆をいくつか整理してみました。これから「例会」を開く参考になればと思います。

地に足の着いた研修のヒント

まず、「足元を掘り下げる」ということです。

食事は、私達が生きていく上で、最も基本となる、足元の営みです。一般的に、一日に三回、私達は食べるのです。この一番平凡な営みの繰り返しを見直すことは、「命の足元を掘り下げる」ことでもあります。

何よりも、食材を掘り下げたことが良かったと思います。どこの誰がどんな思いで作った材料かを知ることは、料理の味わいを深めることに気付かされました。「安ければいい。食べられれば何でもいい」といった程度で求めた食材では、味わいが出てこないのです。

次に、「地域を学べた」ことです。食材の一つ一つを吟味することを通じて、山梨の良さが分かったことも大きな示唆でした。私は、いつも、「山梨にはおいしい料理が少ない」とこぼしていました。いつもそれを聞いていた妻が、この日、「山梨にはおいしいものいっぱいあるじゃない」と言いました。まさに、「山梨の魅力大発見」です。世界遺産といった特別な認定がなくても、みなさんの足元には、こんなにも魅力的な食材がごろごろあるのです。それが分かっただけでも、大発見です。

地域を知れば知るほど、好きになる

いつも、「地域を知ることは、地域を愛する第一歩」だと言っています。「口に入れば、何でもいい」といった無関心では、地域の良さはいつまで経っても分かりません。そして、そういう人の口癖は決まっています。「山梨には何もない」。それは、嘘です。「残念ながら、私は、山梨の魅力に気付いていません」と言う方が正確です。

前回の「例会」の時、会場まで送ってもらった車の中で、「自分の住んでいる地域に対する愛着度で、山梨はワーストワン」と聞きました。私には、あきれた結果にしか思

えませんでした。自分の住んでいる地域の魅力に気付かない」、そんな山梨県民こそ、魅力度ワーストワンです。

『夢甲斐塾』の諸君は、まったく違います。山梨の魅力に取りつかれ、この魅力を最大限生かしていこうという意欲に燃えている人達の集まりなのです。また、そうでなければ、「山梨を良くする」ことなど、叶わぬ夢に過ぎません。

百の理屈よりも、一つのと実践を大事に

三番目に良かったことは、議論ではなく、実践したことです。

私の持論は、「分かってやろうとするな。分かってやろうとすると、すぐに、`そんなことをしてどんな意味があるのか`といった話になり、簡単なことがどんどん難しくなります。意味があるからやるのではない。やることによって意味を作り出す。一見、無意味に見えることを、私がやることによって、意味のあるものにしていく」。それが、命の営みなのです。

今回、みんなで手分けして、頭には三角巾をかぶり、揃いのエプロンを身に付け、料理に取り組みました。一緒になって共に汗を流したのです。議論に議論を重ねても、永遠に決着など付きません。「やってみる」ことによってしか、本当の仲間意識、同志意識は、生まれてきません。これまた私の持論、「同じ目標に向かって、共に汗を流せば、心の絆が結ばれる」。それを地で行った研修だったように思います。

「まずなめてみること」と、松下幸之助

松下幸之助に教えられたこと、「塩と砂糖を前にして、どちらが塩で、どちらが砂糖かと議論していたら、一晩掛かる。議論する前に、なめてみたら分かる」と教えました。その通りです。議論する前に、「やってみる」。これが、私の言う`一次情報で勝負`です。今回の「例会」のやり方は、まさに、その代表例でした。

いずれにしても、諸君もまた、今回の「例会」のやり方から学ぶものがたくさんあったはず。毎回、感動と発見のある学びを繰り返していたら、必ず、人は集まってきます。今まで「例会」にあまり参加しなかった人も、「一度行ってみよう」と思うはず。そして最後に評価すべきことは、全員参加の姿です。人は、自分に求められる役割があるからこそ、存在価値を感じる事ができるのです。仮に「例会」に無理をして出席しても、自分の出番がまったくなかったらどうでしょうか。「私がいてもいなくても、まったく関係がない」と思ったら、誰でも、「次も是非参加しよう」とは思いません。「行っても、行かなくても、何も変わらない」と思ったら、参加の意欲など湧くはずがありません。

自分に必要な役割を与えられるからこそ、「嫌でも、行かなければならない」。今回は、すべての人達に、それぞれに大事な役割が与えられているように思いました。その点も、私にとっては、とても学びの多いことでありました。「例会」の時には、休むに休めないような役割を割り振ることで、「出番の多い組織は良い組織」というのが、私の持論であります。

すべて、今後の「例会」運営に参考になることばかりでした。